

シンポジウム 9 企画概要

タイトル	全国のどの地域でも口腔・栄養ケアを受けられる社会を目指して ～地域包括ケアにおける口腔・栄養ケアの具現化～
------	--

概要

世界に類を見ない超高齢化社会を目前に、我が国の医療は大きく変化しつつあります。多くの高齢者がある一定の虚弱期間を経て、廃用症候群・認知症・脳血管障害・神経筋疾患等による摂食嚥下障害や栄養障害などを抱えながら人生の終焉を迎える実態が広く知られるようになりました。

しかしながら、地域では口腔・栄養ケアはどこに依頼したらいいのだろう？という多職種の声や、口腔ケアの依頼がない。という歯科の声など、ニーズの抽出から依頼方法、そしてケア依頼を受ける医療機関の体制整備が問われています。

そこで、(社)全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会では食支援人材育成研修や同行訪問制度を開始しました。さらに柏市では、総合特区歯科衛生士事務所（歯科診療所の雇用の元で口腔ケア・ステーション的な役割を担う事務所）を開設し、情報共有システムとともに「口腔ケアの具現化」の基本となるシステムを構築し始めました。

一方、訪問の栄養ケアは、訪問栄養士が少ないことや制度上の制約で実施されていない現状があり、日本栄養士会と全国在宅訪問栄養食指導研究会（訪栄研）でも人材育成と資格取得者の活動の場拡大の取組みを始めています。

今回、このようなテーマのもと、

- ① 口腔ケア・ステーション「元気なお口 まほろば」の代表で、(社)全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会の副会長である渡邊由紀子より、歯科衛生士が訪問口腔ケア・ステーションを起点として業務に付くことができる夢のような活動を 15 年間実践してきた、元気なお口 研究会 まほろば の活動経緯から、柏市総合特区歯科衛生士事務所に期待することについての講演
- ② 鶴巻温泉病院の栄養サポート室長で、訪栄研の副会長である高崎管理栄養士より、病院から管理栄養士が地域に出られるためのしくみ作りとして鶴巻温泉病院での取組みの講演
- ③ 柏市総合特区歯科衛生士事務所 PTA の和田和江より、歯科衛生士の自律的な活動についての講演

以上 3 名の講演者を交えて

「在宅医療 日本の未来への道標～食支援の立場から～」についてディスカッションを行いたいと思います。